





世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 13 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

良い例	悪い例
	  

〔 I 〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

第二次世界大戦後において、最も解決が困難な問題の一つに、いわゆる「人種」問題がある。人種問題のなかには、白人系人種が非白人系人種を差別的に取り扱うものがある。ここでは、アメリカ合衆国と南アフリカ共和国の人種差別を、その例として取りあげる。

アメリカの植民地では、17世紀ごろから黒人が奴隷としてアフリカから強制的に連行され、たばこ栽培や綿花プランテーションなどのために苛酷に労働させられていた。1859年に、奴隷制廃止論者である [①] を指導者とする蜂起がヴァージニア州で起きた。蜂起は失敗し、 [①] は絞首刑に処されたが、この事件は南北戦争の予兆となった。その後、リンカン大統領は奴隷解放宣言を發表し、憲法修正第13条で奴隷制度の全面廃止が明文化された。しかし、その後も黒人に対する実質的な人種差別は続き、人種差別廃止運動が繰り広げられた。やがて、黒人解放運動は、黒人を含むマイノリティに対する憲法上の権利の保障を訴える公民権運動となる。公民権運動は、 [②] 戦争の泥沼化にともない、国家が黒人を激戦地へ送り込むことへの反対運動にも結びついた。そして公民権運動は、黒人だけでなく白人も参加する反戦平和運動にも合流していった。黒人解放運動を指導したキング牧師は、非暴力主義の立場に立って運動を続け、ジョンソン政権下での公民権法成立に向けて運動を盛り上げた。だが、キング牧師も1968年にワシントンへ向けての「貧者の行進」を展開中に暗殺されることになる。その後も、アメリカ合衆国では、実質的な人種差別の解消を求める運動が続いている。

他方、南アフリカの人種差別政策は、アフリカーンス語で [③] と呼ばれる。これは、いわゆるアフリカーナーと有色人種とを完全に隔離することを目的としていた。例えば、有色人種の参政権の剥奪、白人と有色人種との婚姻・性交渉の禁止、黒人の居住区域の分離などが定められた。他のアフリカ諸国が独立していった [④] 年代に入ってもなお人種差別政策を続ける南アフリカ共和国に対して、国際連合は制裁を加えた。南アフリカ国内でも、1912年に結成され、白人優位主義の撤廃や非白人の権利擁護を目的に活動していた [④] が、人種

差別政策に反対する運動を展開し、1960年に④が非合法化されると、その闘争は次第に激しさを増していった。国内外の非難にさらされた南アフリカ共和国政府は、人種差別立法を段階的に撤廃し始め、1991年に⑤大統領は、この人種隔離政策を撤廃した。④の指導者の一人は、二十数年間の獄中生活を送り、⑤政権により釈放され、その後自ら大統領に就任した。

しかし、このように人種差別の解決に比較的的成功した両国でも、白人系人種と非白人系人種とのしこりは残っており、いつ再燃するかわからない状況にある。人種差別問題は、現代の世界において、なお解消されていない問題であると言わねばならない。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 文中の下線部㉗～㉚に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、南北戦争後の南部諸州で、奴隷制を事実上維持する立法が制定されたり、公共施設や交通機関で白人と黒人の隔離が行われたりした。このような隔離を行うために設けられた黒人専用の部屋や座席は何と呼ばれていたか。

(イ) 下線部㉘に関して、この政権が、貧困の解消や人種差別の廃止などを目指して提唱した国内政策構想は、何と呼ばれているか。

(ウ) 下線部㉙に関して、アフリカーンス語で会話し、アフリカーナーと呼ばれる白人系人種は、主としてどこの国からの植民者の子孫か。

(エ) 下線部㉚に関して、この居住区域は何と呼ばれていたか。

(オ) 下線部④に関して、これは、人種隔離政策の根幹となっていた三つの法律の撤廃などを意味する。この三つの法律とは、集団地域法、(先住民)土地法と、あと一つは何か。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

フビライは、兄モンケの死後、末弟 ① との後継者争いに勝利し、大都に遷都して、1271年に国号を大元と称して元朝を建てた。フビライは、駅伝制度である ② や、運河・海運を整備し、ユーラシア大陸全土に及ぶ交通網を構築した。朝廷では、中央アジアのムスリムやチベット人や漢人など、各地域の出身者が登用された。モンゴル軍は、南宋の都、臨安(杭州)を占領して、中国を統一した。また、モンゴル軍は、アジアの各地に遠征した。

朝鮮半島では、12世紀末以降、武人政権の支配者崔氏が高麗の実権を握っていた。高麗は、13世紀前半から中葉にかけてモンゴル軍の侵入を受けていたが、結局高麗王家が政策を転換してモンゴルに服属した。モンゴル軍は、高麗を足場に2度にわたり日本を攻撃した。また、中国西南地方から東南アジアでは、モンゴル軍は、1254年に、雲南地方にあった白蛮系民族の国である ③ 国を滅ぼしており、さらにビルマに進軍して、13世紀末に ④ 朝を滅ぼした。モンゴル軍の雲南侵入に押されて南下したタイ人は、スコタイ朝、ついでアユタヤ朝を建てた。ベトナムでは、モンゴル軍は、中部・南部を支配していたチャンパーに遠征し、北部では李氏大越国につづいてこの地域を支配した陳朝に3度遠征した。

モンゴル軍はジャワにも遠征した。元のフビライの使者を追い返してモンゴル軍の遠征を招いた当時のジャワ島東部の王朝はシンガサリ朝であったが、13世紀末に ⑤ 王国が成立し、海上交易で繁栄した。

これらのモンゴル軍の遠征は、征服および直接支配を目的とするものばかりでなく、来貢を促し、交易路を確保することを目的とするものもあった。いずれにせよモンゴル軍の遠征の結果、ユーラシア大陸全域が、海陸両面で結びついた広大な交通・交易網として体系化されることになった。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 文中の下線部㉗～㉜に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、フビライのもとで国師を務めたこの民族出身の僧侶が、フビライの命を受けて作成した文字は何と呼ばれているか。

(イ) 下線部㉘に関して、この民族出身者で、フビライに重用された天文・水利学者の郭守敬らによって、イスラーム天文学の知見も取り入れつつ作成された陰陽暦は何と呼ばれているか。

(ウ) 下線部㉙に関して、この後も降伏を拒み、1270年代初頭に濟州島などを根拠地に抵抗を続け、モンゴル軍・高麗軍に鎮圧された軍団は何と呼ばれているか。

(エ) 下線部㉚に関して、この王朝の第3代の王で、マレー半島全域を支配下に置き、上座部仏教を導入し、タイ文字を作ったとされる王は誰か。

(オ) 下線部㉛に関して、この王朝は中国に範をとって、科挙を実施し、諸制度を整備し、黎文休(レ=ヴァンヒウ)に命じて史書の編纂も行った。この史書は何と呼ばれているか。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の間に答えなさい。

イベリア半島は、8世紀にイスラーム勢力の支配下に入った。これに対して⑦キリスト教徒は、国土回復運動(レコンキスタ)の戦いを続けた。12世紀には、半島の北部がキリスト教勢力の支配下に入り、カスティリヤ、アラゴン、ポルトガルなどの王国が成立していた。15世紀後半には、カスティリヤ王女イサベルとアラゴン王子フェルナンドが結婚したことで両国が統合され、スペイン(イスパニア)王国が成立した。その後スペイン王国は、1492年に①を滅ぼして国土回復運動を完成し、また、積極的な海外進出⑧に乗り出した。女王イサベルは、コロンブスを「インド」に向けて派遣した。コロンブスは、大地は球形であり、大西洋を西進するのがインドへの近道であるとする、フィレンツェの天文学者②の説の信奉者で、この説に従って大西洋を西進し、現在のバハマ諸島に到達した。

また、マゼランも同様に、スペイン王室の援助を受けて大西洋を西進し、南アメリカ南端の海峡(マゼラン海峡)を経て太平洋を横断し、③に到達した。マゼラン自身は③で死亡したが、彼の船団がアフリカ経由でスペインに帰国して、史上初の世界周航を達成した。

スペイン王室は、ハプスブルク家と婚姻関係を結び、カルロス1世は、カール5世として神聖ローマ皇帝にも選出された。彼の治世の間にスペインは、海外植民地を拡大し、ラテンアメリカ植民地のポトシ銀山⑨から得た多量の銀を元手に、イタリア戦争や植民地の維持のための戦争を行った。

カルロス1世を継いだフェリペ2世は、1571年の④の海戦でオスマン帝国軍を撃破し、またその後ポルトガルの王位を継承して同国の海外植民地も併合した。そして彼の治世にスペインは、「太陽の沈まぬ国」と呼ばれる全盛期を迎えた。

しかしながら、全盛期に万事問題なく統治が行われていたわけではなかった。スペインの統治下にあったネーデルラントでは、カルヴァン派の新教徒が多く、フェリペ2世が推進したカトリック政策に対する反発が強くなり、独立戦争が勃発した。その中でカトリックが優勢な南部10州はアラス同盟を結成して独立戦

争から脱落したが、北部7州は ⑤ 同盟を結成し、1581年にネーデルラント連邦共和国(オランダ)として独立した。その際イギリスがオランダ独立を支援したことから、フェリペ2世は、イギリスに無敵艦隊を送ったが、ドレークらの活躍や暴風により、無敵艦隊は壊滅した。この敗北により、スペインは制海権^④を失い、その繁栄に陰りがでることになった。

問1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われるものを次の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

[語群]

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| A アムステルダム | B イドリース朝 | C インドネシア |
| D エラトステネス | E ケブラー | F コベルニクス |
| G サラミス | H タイ | I トスカネリ |
| J ナスル朝 | K フィリピン | L プトレマイオス |
| M フランドル | N プレヴェザ | O ホラント |
| P マラッカ | Q モハーチ | R ユトレヒト |
| S ラブラース | T レオン王国 | U レバント |
| V ロッテルダム | W ワッターズ朝 | |

問2 文中の下線部⑦～⑩に関して、次の問(ア)～(オ)に答えなさい。解答は各問の語群の中からもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

(ア) 下線部⑦に関して、西ゴート王国を滅ぼしたウマイヤ朝は、さらにフランスにも侵攻したが、トゥール=ボワティエ間の戦いでフランク王国軍に敗れた。その時のフランク王国の宮宰は誰か。

[語群]

- | | |
|------------|------------|
| A クローヴィス | B シャルルマーニュ |
| C カール=マルテル | D ピピン |
| E ユーグ=カペー | |

(イ) 下線部㉑に関して、スペインの海外進出において、イエズス会の果たした役割は大きいですが、次のうちイエズス会宣教師でない者は誰か。

[語群]

- A トマス＝アキナス B イグナティウス＝ロヨラ
C フランシスコ＝ザビエル D マテオ＝リッチ
E カスティリオーネ

(ウ) 下線部㉒に関して、ポトシ銀山と同時期に多量の銀を産出し、現在は世界遺産に登録されている日本の銀山はどこか。

[語群]

- A 生野銀山 B 上田銀山 C 対馬銀山
D 石見銀山 E 因幡銀山

(エ) 下線部㉓に関して、フェリペ2世と結婚したイギリスのメアリ1世は、熱心なカトリック教徒であった。メアリ1世は、父ヘンリ8世が行った宗教改革を覆してカトリックの復活を試みたが、宗教的な混乱が生じた。その後エリザベス1世が、イギリス国教会を確立し、宗教的な混乱を収拾させようとして、国教会の礼拝・祈祷方式を定めた法律は何と呼ばれているか。

[語群]

- A 統一法 B 首長法(国王至上法) C 審査法
D 王位継承法 E 人身保護法

(オ) 下線部㉔に関して、スペインの没落をうけて勢力を拡大したのがオランダである。オランダは17世紀初めに東インド会社を設立してアジアに進出し、バタヴィアにオランダ商館を建設し、植民地経営の拠点とした。バタヴィアが位置したのは、現在のどこの島か。

[語群]

- A ルソン島 B ジャワ島 C ボルネオ島
D ミンダナオ島 E スマトラ島

〔IV〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

6世紀後半、ササン朝とビザンツ帝国の抗争が激化すると、両国の国境を通る交易路は衰え、かわって紅海経由の交易路が栄えるようになり、メッカが興隆した。メッカ出身のムハンマドは、7世紀初めに唯一神への服従を説くイスラームの教えを説いたが、メッカでは受け入れられなかった。622年にムハンマドはムスリム(イスラーム教徒)とともにメディナに移住し、その後メッカを征服した。こうしてメディナを中心に、アラビア半島を支配するイスラーム国家が誕生した。

ムハンマドの死後、指導者の地位を後継した正統カリフの時代に、イスラーム国家の領域は拡大し、北アフリカ東部からペルシャに至るまでの大帝国となった。661年、最後の正統カリフである第4代のアリーが暗殺されると、シリア総督であったムアーウィヤは、でウマイヤ朝をひらき、カリフ世襲化の道を開いた。アリーの悲劇的な死は、ムスリムが分裂してシーア派が生まれる契機となった。

ウマイヤ朝も積極的に領土拡大を行い、東は西トルキスタンや西北インドまで、西は北アフリカ西部からイベリア半島までの広大な地域を征服した。イスラーム軍は8世紀初めに西ゴート王国を滅ぼしたあと、ピレネー山脈を越えてフランク王国の奥深くまで侵入したが、フランク王国に敗れ、ピレネー山脈の南に退いた。この間、ビザンツ帝国のコンスタンティノープルも数次にわたって包囲したが、失敗に終わった。こうしてウマイヤ朝の領土拡張の勢いは止まった。

ウマイヤ朝は、アラブ人が征服地の異民族を支配する、いわばアラブ帝国であった。アラブ人は、国家財政の基礎であったハラージュとジズヤを免除される特権を享受できたが、被征服地の住民はたとえイスラーム教に入信してもそれらの税を免除されなかった。8世紀前半、ウマイヤ朝の領土拡張が落ち着くにつれ、アラブ人優遇政策はムスリムの平等を説くイスラームの理念に反するという不満が国内で高まった。またシーア派も反ウマイヤ朝運動を展開した。750年にウマイヤ朝は滅亡し、アッバース朝が開かれ、新首都が建設された。アッバース朝では、ムスリムは民族に関係なくジズヤを免除されるようになり、

また非アラブ人も官僚として登用されるようになった。ウマイヤ朝はアラブ帝国であったが、その領土を受け継いだアッバース朝はいわばイスラーム帝国であった。

アッバース朝の成立後、ウマイヤ朝の一族は西方に逃れ、756年に [③] で後ウマイヤ朝を開いた。アッバース朝では、最盛期であったハールーン=アッラシードの時代から、領内の各地で事実上の独立王朝が自立するようになった。ハールーン=アッラシードの死後、アッバース朝のカリフは自己の権力の強化のため、騎兵としても有用なトルコ系奴隷(マムルーク)を大量に用いるようになり、トルコ人がイスラーム帝国に進出する道をひらいた。軍事力の強化にもかかわらず、イスラーム国家の分裂と多様化の潮流は、すでに動かしがたかった。

9世紀後半、イラン系ムスリムの勢力が強まり、サッファール朝やサーマーン朝が成立した。シーア派のイラン系 [④] 朝は、10世紀半ばに [②] に入城し、アッバース朝の中心地を支配した。また同じくシーア派のファーティマ朝は、アッバース朝の正統性を否定してカリフを自称し、10世紀後半にエジプトを征服して新都カイロを建設した。

シーア派がイスラーム圏の中心部で勢力を拡張したのに対して、トルコ系ムスリムは、シーア派と対立する多数派であるスンナ派を勢力に取り込み、イスラーム圏の東部で自立するようになった。10世紀半ば、トルコ系ムスリムは、中央アジアでカラ=ハン朝を、アフガニスタンで [⑤] 朝をひらいた。スンナ派を取り込んだトルコ系のセルジューク朝は、 [④] 朝を追って11世紀半ばに [②] に入城し、カリフからスルタンの称号を認められた。

この前後から、イスラーム化の波は中央アジアや南アジア、東南アジアにも及び、各地でイスラーム系の諸王朝が繁栄するようになる。イスラーム圏が拡大した原因として、イスラーム国家による軍事的征服だけでなく、ムスリム商人の交易ネットワークという経済的要因や、イスラームの学芸や文明へのあこがれ④といった文化的な要因も、見落とすべきではない。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われるものを次の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

〔語 群〕

- | | | |
|---------|-----------|----------|
| A アイユーブ | B アンティオキア | C イエルサレム |
| D ヴァルダナ | E カージャール | F ガズナ |
| G コルドバ | H ゴール | I ス サ |
| J セピリア | K ダマスクス | L テヘラン |
| M トレド | N バグダード | O バスラ |
| P パルセロナ | Q バレンシア | R プワイフ |
| S ベイルート | T マジャール | U ムラービト |
| V ムワッヒド | W メンフィス | |

問 2 文中の下線部㉗～㉜に関して、次の問(ア)～(オ)に答えなさい。解答は各問の選択肢のなかからもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、イスラーム教に関する説明として、もっとも適切なものはどれか。

〔選択肢〕

- A イスラーム教の聖典『コーラン』(『クルアーン』)は、第3代カリフであるアブー＝バクルにより現在の形に編集された。
- B 『コーラン』(『クルアーン』)は、1日5回の礼拝などの信仰に関わる事柄だけでなく、豚肉を食べることの禁止など、ムスリムの生活全般を規定している。
- C ムスリムに課せられた5つの信仰行為(五行)は、信仰告白、洗礼、礼拝、喜捨、断食である。
- D イスラーム教では、神とアラブの民との間に特別な契約が結ばれ、ウンマと呼ばれるムスリムの共同体が形成された。
- E ハディースは、『コーラン』(『クルアーン』)やシャリーアなどを法源とする。

(イ) 下線部④に関して、コンスタンティノープルに関する説明として、もっとも適切なものはどれか。

[選択肢]

- A ポスボラス海峡に面しており、フェニキア人の植民都市ビザンティオン(ビザンティウム)として建設された。
- B 5世紀後半、コンスタンティヌス1世は、ローマからこの都市に遷都して、コンスタンティノポリスと名付けた。
- C ユスティニアヌス帝は、ゴシック様式に特徴的な尖塔をもつハギア=ソフィア聖堂をこの都市に建設した。
- D 13世紀初め、ボニファティウス8世が提唱して行われた第4回十字軍が、この都市を占領・略奪した。
- E オスマン帝国のメフメト2世は、この都市を征服してイスタンブールと改称し、トプカプ宮殿を建設した。

(ウ) 下線部⑤に関して、ハラージュとジズヤの説明として、もっとも適切なものはどれか。

[選択肢]

- A ハラージュは地租、ジズヤは人頭税。
- B ハラージュは所得税、ジズヤは地租。
- C ハラージュは地租、ジズヤは所得税。
- D ハラージュは所得税、ジズヤは人頭税。
- E ハラージュは人頭税、ジズヤは地租。

(エ) 下線部㊸に関して、カリフおよびスルタンの説明として、もっとも適切なものはどれか。

[選択肢]

- A アラビア語で、カリフの原義は「権威」、スルタンの原義は「後継者」である。
- B ウマイヤ朝以降、カリフは世襲制がとられたが、10世紀以降は複数のカリフが並存した。
- C セルジューク朝のセリム1世の時代に、スルタンがカリフを兼ねるスルタン=カリフ制が成立した。
- D カリフを称することができる君主はアラブ系に限られたが、スルタンの称号は非アラブ系の君主にも認められた。
- E トルコでは第2次世界大戦後にスルタン制が廃止された。

(オ) 下線部㊹に関して、イスラームの学芸や文明に関する説明として、もっとも適切なものはどれか。

[選択肢]

- A イブン=ルシュドはアフリカ・アラビア・インド・中国などを歴訪し、マルコ=ポーロの『東方見聞録』と並ぶ旅行記を生み出した。
- B アラビア数字は、ローマ数字を原型にイスラーム世界で完成し、フィボナッチらの書物を通して各地に普及した。
- C イスラームの法学者ウラマーを養成するための高等教育機関であるアカデメイアが各地に設置された。
- D セルジューク朝時代の詩人・科学者ウマル=ハイヤームは、暦を制定するとともに大説話集『千夜一夜物語』を著した。
- E イブン=シーナーは、医学の権威であるとともに、ギリシャ哲学、特にアリストテレスの影響を受け、哲学の著作を行った。